国営武蔵丘陵森林公園

整備・管理運営プログラム

平成29年3月

国土交通省関東地方整備局
国営昭和記念公園事務所

目　　次

目　次　・・・　１

１．全体計画及び開園状況　・・・　２

（１）全 体 計 画　・・・　２

（２）供用の経緯　・・・　４

２．平成32年度までの整備及び管理運営の方針等　・・・　６

（１）平成32年度までの整備・管理運営の重点事項　・・・　６

（２）整　備　方　針　・・・　８

（３）管理運営方針　・・・　１０

（４）事 業 の 効 果　・・・　１４

1. 全体計画及び開園状況

（1）全体計画

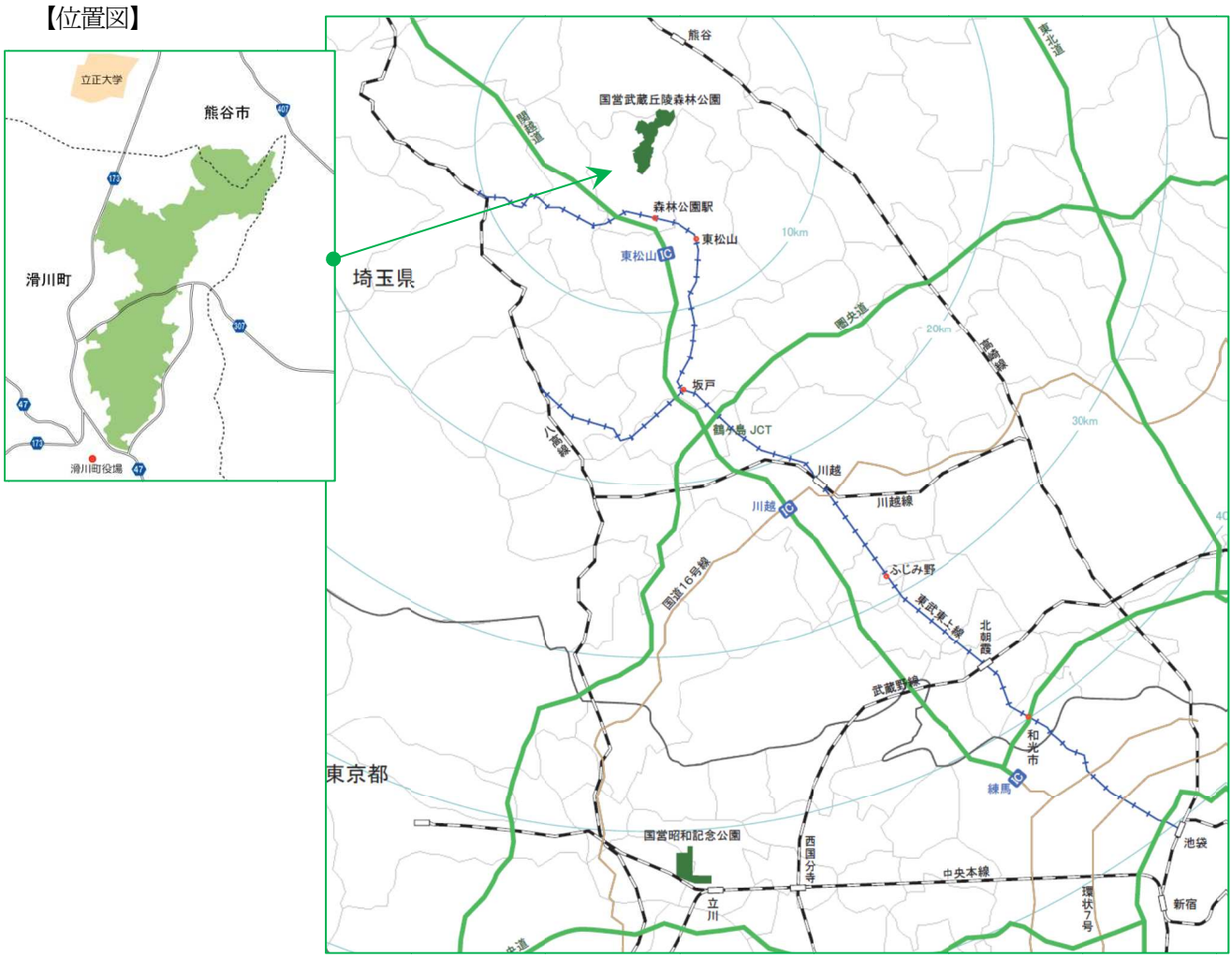
国営武蔵丘陵森林公園は、明治百年を記念し、自然を失いつつある都市の住民が緑を通じて人間性を回復する場を確保するため、昭和４３年３月１２日に都市計画決定、昭和４３年１０月１８日に閣議決定（明治１００年事業として行う国営森林公園の設置）に基づき設置された、全国で初めての国営公園（ロ号）です。

森林公園としてふさわしい環境を保持しつつ、子どもから大人までが、四季折々の自然の中で、レクリエーション活動が行える場を、引き続き提供していきます。

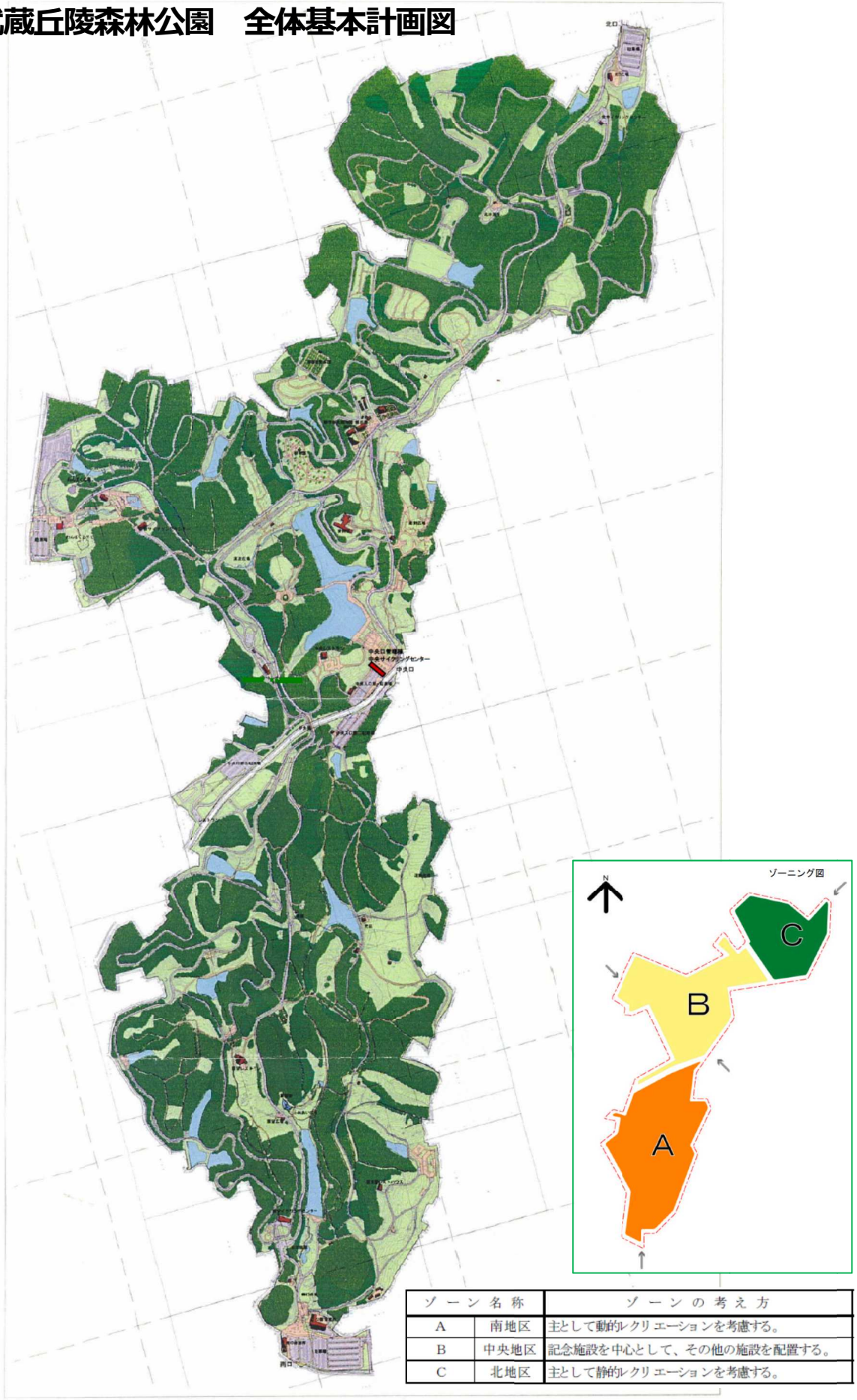
所　　在　　地	埼玉県比企郡滑川町、熊谷市
全　体　面　積	304ha（東西約１ｋｍ、南北約４ｋｍ）
整 備 着 手 年 度	昭和 42 年度
供 用 開 始 年 度	昭和 49 年度

※ロ号国営公園…国家的な記念事業として、又は我が国固有の優れた文化的資産の保全及び活用を図るため閣議の決定を経て設置する都市計画施設である公園又は緑地

【位置図】



国営武蔵丘陵森林公園　全体基本計画図



ゾーン名称		ゾーンの考え方
A	南地区	主として動的レクリエーションを考慮する。
B	中央地区	記念施設を中心として、その他の施設を配置する。
C	北地区	主として静的レクリエーションを考慮する。

（2）供用の経緯

1）国営武蔵丘陵森林公園のこれまでの主な経緯

昭和 41 年 4 月	閣議決定により「明治百年記念準備会議」設置
昭和 43 年 10 月	閣議において国営森林公園の設置が決定
昭和 45 年 5 月	建設大臣が基本計画を決定
昭和 49 年 7 月	開園
昭和 63 年 7 月	ウォーターランドプール開設
平成 2 年 4 月	北口を開設
平成 6 年 3 月	雅の広場を整備
平成 11 年 3 月	渓流広場を整備
平成 13 年 1 月	ドッグランを整備
平成 14 年 11 月	入園者が 3,000 万人を突破
平成 15 年 9 月	ぽんぽこマウンテンを整備
平成 18 年 3 月	ウォーターランドプールの廃止
平成 21 年 4 月	西口ひろばを整備
平成 22 年 4 月	中央口センター棟を整備
平成 26 年 7 月	開園４０周年
平成 27 年 5 月	入園者が 4,000 万人を突破
平成 28 年 3 月	渓流広場を再整備

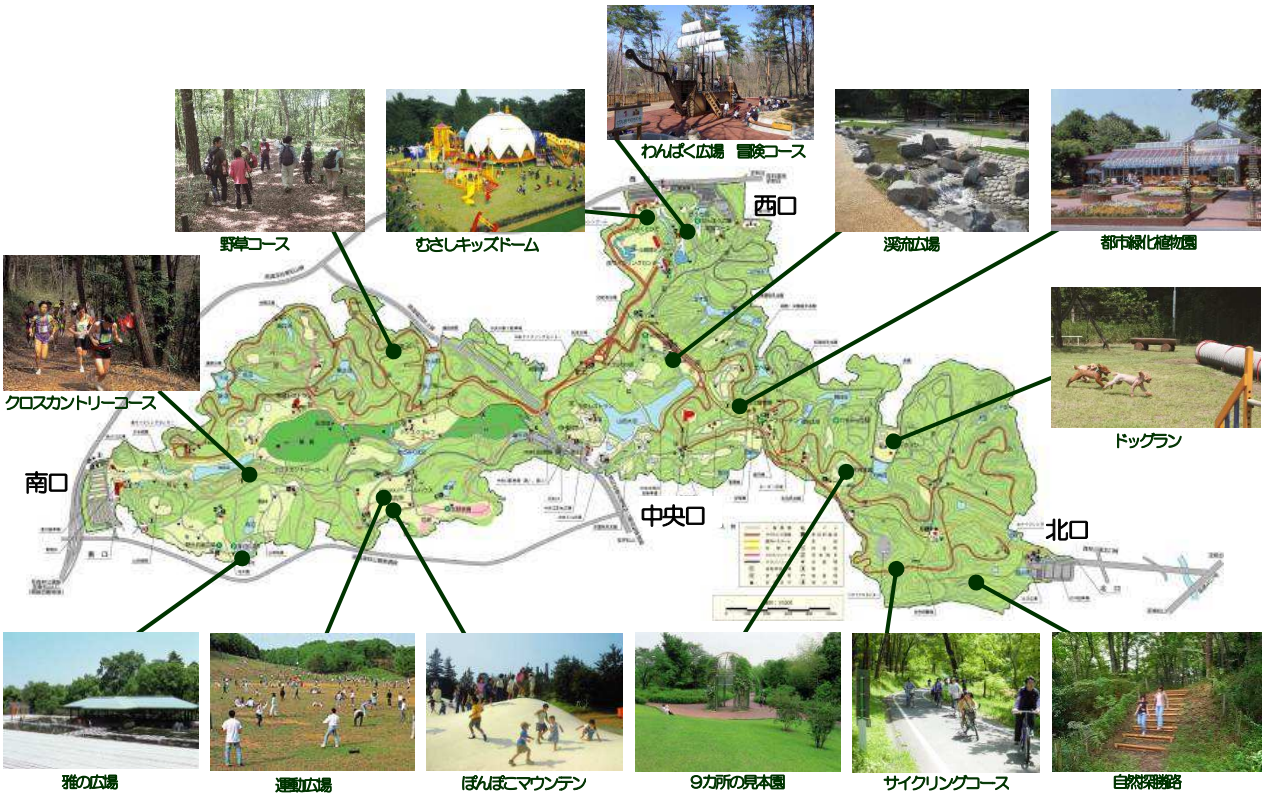
渓流広場

中央口センター棟

2）主な供用施設

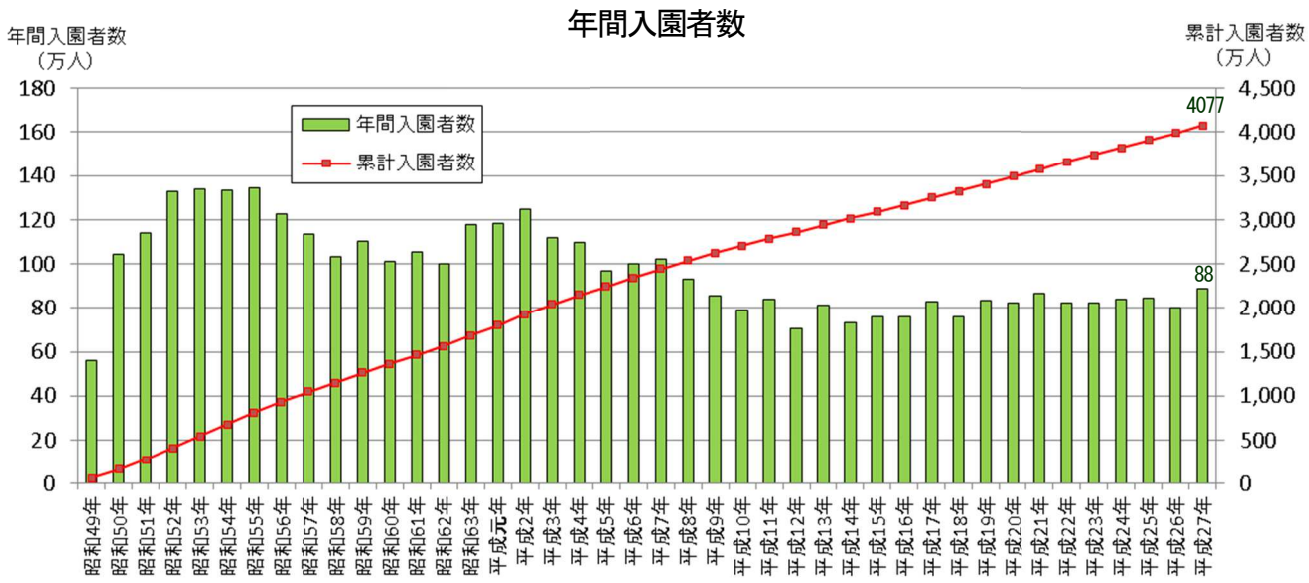
園　路	大中小の園路及び自然散策路、約１５０種の野草が観察できる野草コース、マラソンコース・クロスカントリーコースがあります。 小園路の一部では、園内に残る古鎌倉街道をそのまま利用しています。
サイクリングロード	緑の中に作られた延長約１７ｋｍのサイクリング専用コースがあります。
広　場	こども達に人気の運動広場やわんぱく広場、水とふれあえる渓流広場、展望広場、記念広場、林間広場など、緑に囲まれた多様な広場があります。
都市緑化植物園	都市緑化に用いられる樹木や花木を種類別、用途別に植えてある見本園があり、中央の展示棟では四季の動植物などを展示しています。 また、各種イベント会場やボランティア活動の拠点としても活用しています。
花木園	緩やかな斜面の広場に桜：約 500 本、梅：約 600 本、福寿草：約１万株が植えられています。

園内の主な施設



3）利用者の状況

開園から平成２７年度末までの入園者数の累計は約4,０００万人であり、平成２７年度には約８８万人の方々に利用されています。



2. 平成32年度までの整備及び管理運営の方針等

（1）平成32年度までの整備・管理運営の重点事項

平成３２年度までの間、「緑を通じて人間性を回復する場」という本公園の使命を踏まえたうえで引き続き適切な管理運営を進めるとともに、日本最初の国営公園として永く国民に愛される公園を目指して公園施設の再整備を行います。

重点目標 １ ： 園内施設の戦略的な維持管理・更新

① 定期的な点検管理の実施

園内施設の定期的な点検を確実に実施し、結果を公表（見える化）することにより、確実にメンテナンスサイクルを回すことが出来る体制を構築し、入園者の安全・安心を確保します。

② 個別施設ごとの長寿命化計画の策定・実施

園内施設の長寿命化計画に基づき、維持管理・更新等に係るコストの縮減・平準化を図り、施設の老朽化対策を確実に行えるよう、取り組みを推進します。

重点目標 ２ ： 人口減少・高齢化に対応したサービスの提供及び自然環境の保全

① 失われつつある里山の自然環境の保全活用

園内の自然環境を保全することで美しい里山の風景・景観を維持し、これからの日本の里山管理の在りようをリードすると共に、地域のエコロジカルネットワークの拠点としての生物多様性の確保、野生生物の生息・育成環境の確保に貢献していきます。

② 学習・研究の場の提供

体験型の環境学習や自然観察会を開催し、多くの方が自然の大切さや役割、緑化技術を学ぶ場を提供します。

③ 少子高齢化に対応したサービスの提供

少子高齢化の進展や余暇活動のニーズの高まりに対応するため、園内の園路及び広場等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化の推進、休憩や移動等のサービス水準の高度化、健康増進のための施設整備を進めます。

④ 四季折々の森や里山の楽しみ方の提供

国民各層の誰もが安心・便利に使える公園、起伏のある地形や管理された森林・里山ならではの季節感を味わい様々な楽しみ方が出来る公園として利用者の視点に立ったサービス向上を図ることで利用者満足度の向上、利用促進を図ります。

重点目標 ３ ： 地域圏の産業･観光投資を誘発する地域づくりの推進

① 多様な主体及び地域との連携

多様な主体の参画・協働による公園の効率的かつ効果的な管理運営や、周辺地域と連携した観光客誘致などを進めます。

② 個性を活かした魅力づくりと利便性の向上

園内で実施する各種イベントについて、里山環境を活かした日本の伝統文化や景観等を体験できる魅力あるものとし、併せて園内表示の多言語化やピクトグラムの採用により、外国人利用者なども含めた、誰でも使いやすい公園の環境整備を目指し、利便性の向上を図ります。

重点目標 ４ ： 切迫する巨大地震等に対するリスクの低減

① 防災拠点としての機能強化

首都直下地震等大規模地震発生時の円滑な救援・復旧活動を支援するため、災害対策用車両本部として緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）をはじめとした救援部隊が、災害時に当公園を拠点に活動できるよう整備を進めます。

（2）整備方針

前述の重点事項を踏まえ、以下の方針の下に整備を実施していきます。

① 安全で快適な公園施設の更新　【重点目標1】

今後も安全で安心な公園として利用頂けるよう、老朽化が進行している施設（サイクリングコース・浄化槽・電気通信設備）を計画的に更新します。

② 魅力ある子どもの遊び場の創出（西口エリア）【重点目標2】

特に子どもの利用の中心となっている西口エリアについて、水遊び場の更新、冒険コース遊具の入れ替えによる魅力向上、園路、広場等のバリアフリー化や施設間の連携強化により、より一層安全で魅力あるエリアとなるよう、再整備を進めます。

③ 園内アクセスの改善（中央口～渓流広場）【重点目標2】

中央口から渓流広場までの区間を中心に、園路･広場のバリアフリー化、再整備を行い、公園内のアクセスを改善します。園内利用ルールの変更などソフト対策によるバリアフリーについても検討を進めます。

④ 多様な利用者に対応した公園づくり【重点目標3】

子どもからお年寄り、国外からの利用者など、多くの人に楽しんでもらえるよう、ピクトグラムの採用や多言語化などによる分かりやすいサインの改修や増設、券売機の多言語化等を実施します。

⑤ 防災拠点としての機能強化【重点目標4】

大規模災害時にも防災拠点として活用されるよう、補助電源や照明設備の増設等により防災機能を強化します。

平成３２年度までの主な整備箇所

（3）管理運営方針

前述の重点事項を踏まえ、以下の方針の下に管理運営を実施していきます。

① 定期的な点検管理の実施　【重点目標1】

最新の基準等に基づく園内施設の安全点検を実施し、ハザードの解消など管理を徹底して事故の防止に努めると共に、既存の公園資源の有効活用及び効率的な管理運営を行っていきます。また、園内施設について、ライフサイクルコストの縮減を意識した計画的な維持管理を進めていきます。

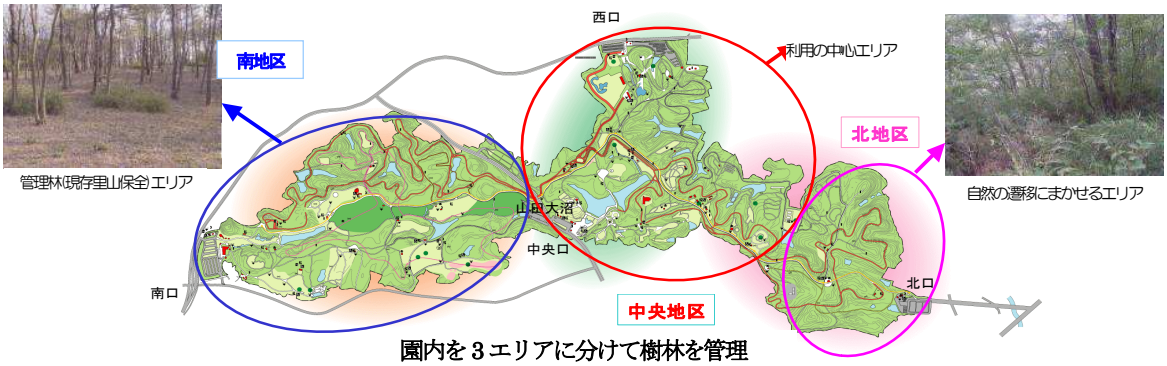
木製遊具の安全点検

間伐材のリサイクル、堆肥化

② 失われつつある里山の自然環境の保全活用　【重点目標2】

森林公園は比企丘陵の里山を３０４ｈａに渡って公園としたものであり、開発や管理放棄などで里山が失われていく中、この里山の価値は高まっています。また、地域のエコロジカルネットワークの拠点として重要な役割を担っています。

このような森林公園の貴重な自然環境を保全するため、生態系に配慮した適切な維持管理に努め、里山環境保全のリーディング公園として質の高い管理運営を行うとともに、里山管理のノウハウ等の普及啓発を図り、より自然に親しめる公園を目指します。



園内を３エリアに分けて樹林を管理

■林内照度を確保するための間伐や下草刈りを計画的に行い、里山特有の植物育成環境を改善

ヤマユリ

シュンラン

カタクリ

シライトソウ

ヤマブキソウ

③ 学習・研究の場の提供　【重点目標2】

〇環境学習の推進

現在、主に小学生を対象とした体験型の環境学習プログラムをボランティアの協力を得て実施しており、また、里山の自然に親しんで頂くための自然観察会も定期的に行っています。

このような環境学習や自然観察会の機会を増やすと共に、花の見所の紹介など園内散策の参考資料や資料展示の充実を図ります。

体験型プログラム（ツリーイング）

環境学習

里山体験塾（竹ごはん）

〇都市緑化植物園の運営

都市緑化植物園では、都市の緑の役割や重要性、緑に関する技術基準や制度等をわかりやすく伝える広報の充実を図るとともに、次世代を担う子どもをはじめとした多くの市民に対して、自然の大切さや、緑の果たす役割などを楽しみながら学ぶ機会を提供します。

また、緑に関わる幅広い人材を育てるため、一般市民向けの研修や講習会を開催して都市緑化の推進を支援します。

さらに、里山管理に関するノウハウを蓄積するとともに、多様な活動主体と連携した里山管理のリーディング公園として生物多様性の確保に資する質の高い管理運営及び普及啓発を行います。

各種パンフレットによる広報

小中学生向けの環境学習

定期講習会の開催

里山管理ノウハウの蓄積

④ 四季折々の森や里山の楽しみ方の提供　【重点目標2】

〇情報提供の充実

市民に対しては、当公園ホームページを通じて見やすくわかりやすい情報をタイムリーに提供するなど更に充実を図っていきます。また、園内の見所や実施イベント、レクリエーション施設などについて広報、情報提供を充実していきます。

〇魅力あるイベントの展開

森林・里山の景観など、当公園の自然や特徴、地域の文化を生かした四季折々のイベントを展開していきます。

イベント内容については、毎年の実施結果を分析評価して改善していきます。

夜間開園イベント「紅葉見ナイト」

地元学生の協力で作成した伝統和紙の行灯

⑤ 多様な主体及び地域との連携　【重点目標3】

〇多様な主体による活動の充実

現在、当公園では４つの活動分野で登録人数１３０名以上のボランティアが活動しており、引き続きボランティア活動の作業環境の充実や活動支援などを行い、ボランティアの皆様の満足度向上、参加者の拡大を図っていきます。

また、周辺の学校や団体によびかけ、里山管理の指導や活動支援などを行い、多様な主体による園内の里山管理を推進します。

花壇の管理（植物園ボランティア）

雑木林の管理（雑木林ボランティア）

○地域と連携した活動の充実

周辺地域と連携した活動を充実し、地域の活性化に貢献していきます。レストランや売店ではご当地グルメや地産品を積極的に扱い、地域全体で実施するスリーデーマーチや、沼まつり等の農村文化を伝える様な行事を中心に、周辺地域と連携したイベントの実施などを行っていきます。

地元滑川町で進めている「ため池」を活用した「ため池稲作農法」を基軸とした農業環境を維持・継承していく取り組みを支援し、日本農業遺産や世界農業遺産への認定を目指し、昔ながらの農耕行事を公園内で開催するなど、伝統的な農業システム伝承の支援活動を行っていきます。

地域特産米の販売

昔ながらの農耕行事である沼まつりの様子

⑥ 防災拠点としての活用　【重点目標4】

有事の防災拠点としての円滑な運営に向け、平時から TEC-FORCE 等による防災訓練を継続的に実施します。また、公園内において消防等の防災訓練を受け入れるなど、地域との防災連携を図っていきます。

TEC-FORCE の訓練

園内での消防訓練

（4）事業の効果

平成３２年度までに上記の施策を実施することにより、次のような事業効果を目指します。

重点目標 １ ： 園内施設の戦略的な維持管理･更新

（1）公園施設長寿命化の運用

平成 27 年度において、「公園施設長寿命化計画策定指針（案）（平成 24 年 4 月）」に基づき、「武蔵丘陵森林公園長寿命化計画」を作成し、平成 29 年度から運用を開始します。

これにより、維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減、平準化を図ります。

重点目標 ２ ： 人口減少･高齢化に対応したサービスの提供及び自然環境の保全

（1）公園の魅力向上

自然とのふれあいや西口エリアの子ども供の遊び場の創出、ユニバーサルデザインへの対応、園内サインの改修や増設等により、利便性向上が図られ魅力向上が期待されます。

【現　状】来園者からの意見要望ワースト２

１位　公園が広すぎて道に迷う

２位　坂道や階段が多すぎる

【効果①】園内サインの改修・増設（道案内の充実）

⇒　道に迷う来園者が半減

【効果②】利用が多いスポットのバリアフリー化（中央口から山田大沼を周遊して渓流広場までの園路を改修）

⇒　車椅子を使った場合の移動時間・距離が１／２に短縮

従来１．３Km２０分以上、最大斜度１０％

→　０．６Km１０分程度、最大斜度　５％未満に改善

（2）失われつつある里山の自然環境の保全

生態系に配慮した維持管理や、里山管理のノウハウの普及啓発により、里山環境の保全に貢献することができます。

【現　状】埼玉県で確認されている絶滅危惧種(植物)のうち、約６０種が園内に棲息

ギンリョウソウ

サイハイラン

ナンバンギセル

ツリフネソウ

生物多様性も目的とした里山の樹林地管理更新手法について、平成２７年度から試行を開始

【効　果】貴重な自然環境保全のための新たなゾーニング設定を行い、保全のためのエリアと里山として管理するエリアを区分し、計画的に樹木の間伐や、林地更新を図るなどメリハリのある管理を行うことにより、生物多様性が確保され、里山環境保全に貢献

（３）自然の大切さを学べる場の提供

体験型の環境学習プログラムや里山の自然に親しんで頂くための自然観察会の充実により、自然の大切さを多くの方に伝えていくことができます。

【現　状】日本一の品種数を誇る椿園（約 500 種）や日本有数の品種数を誇る梅園（約 120 種）が存在

【効　果】当公園でしか見られない動植物等を活用した環境学習などの体験型プログラムが更に充実

重点目標 ３ ： 地域圏の産業･観光投資を誘発する地域づくりの推進

（１）社会貢献の場の提供

ボランティア活動の作業環境の充実や活動支援などにより、市民の社会貢献ニーズに対応するとともに、多様な主体の参画・協働による魅力ある公園管理を行うことができます。

【現　状】現在活動されている団体のポテンシャルが活かしきれていない。

【効　果】他ボランティア団体との合同研修ツアーを通じた交流の機会作りや地域協働スタッフがサポートできる体制を構築し、モチベーションとスキルの向上に取り組むことにより、ボランティア活動の活性化の効果が期待できる。

新たに「自然資源」、「芸術」のボランティアを立ち上げ、市民参加のすそ野を拡大

（２）地域の観光振興や活性化への貢献

周辺地域と連携し、物産や文化などの地域の資産を活かしたイベントを実施することにより、地域の観光振興や活性化へ貢献することができます。

【現　状】森林公園地域懇談会を通じて、里山の環境と文化の継承等について、平成２６年度より議論を開始。

【効　果】地元自治体や地域団体との連携強化により、当公園を軸に地域活性化が図れる。

公園と地域の魅力が様々なチャンネルで配信され、公園・地域への来訪者の増加が期待される。

自治体との連携による地域住民の公園利用促進により、高齢化社会における健康増進を図ることができる。

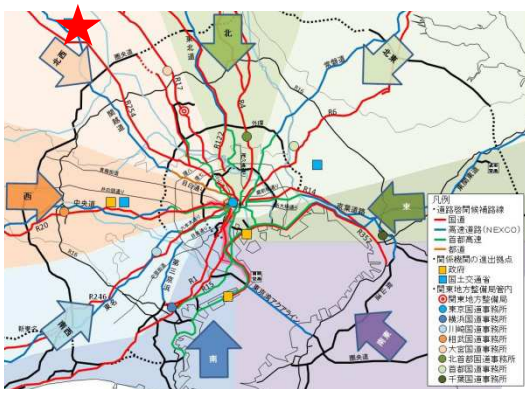
重点目標 ４ ： 切迫する巨大地震等に対するリスクの低減

（１）首都圏での大規模災害時における車両参集拠点（TEC-FORCE）

国営武蔵丘陵森林公園は、首都直下地震等大規模地震発生時の円滑な救援・復旧活動を支援するため、災害対策用車両本部として緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）をはじめとした救援部隊が災害時に当公園を拠点とする計画となっており、防災機能の向上に寄与しています。園内の駐車場、研修室等の建物を拠点とするほか、原っぱをヘリポートとして利用する計画となっています。

八方向作戦

〇八方位で同時に進行する「八方位作戦」
〇高速道路（NEXCO、首都高）、直轄国道を軸に、被災状況に応じて、放射方向、環状方向で相互に利用し、道路啓開ルートを設定　　（☆：国営武蔵丘陵森林公園）



園内研修室での対策本部設置訓練の状況

園内駐車場での災対車両展開訓練の状況

既に、駐車場照明灯や CCTV カメラの設置、災害対策車両本部の改修を行っており、今後は、駐車場から災害対策車両本部までの区間において、自家発電機や照明設備の増設等により防災機能を強化し、災害等のリスクを低減します。

なお、本プログラムは、事業の進捗状況などをふまえ、適宜見直しをしていくものです。